

教育を広義にとらえれば、子どもが「自立」に向けて成長するプロセスを支援することにあります。そのために、子どもの各発達段階を通して身につけさせたい力として次のような五点が考えられます。

◆受動性 素直で受け入れがよく、人の話をきちんと聞ける

◆主体性 自らの目標に向かって努力する

◆人間関係調整能力(場面や状況に応じた対応をする)

◆協調性(周囲と協力する社会性を持つ)

◆責任感 自分の果たすべき役割を果たす

総じて言えば「自立」とは子どもは親に育てられ、自立し大人になり、やがて自分も親となり子どもを育てるということになります。従って、社会全体で真剣に次世代を育てていくという姿勢や意識を持つことが重要であります。

子どもの生きる力を伸ばし自立を育むために、家庭や地域・学校・社会はどのような環境を整えるべきかを考えねばならない時期にきていると思われます。就業形態の多様化、雇用形態の流動化などにより、自立生活のための経済的基盤が得にくくなっています。若者が職業や家庭生活を営むことに対する将来の展望や、努力が将来の自己形成に結びつく実感を持ちにくい環境になっています。結果自立できないまま親となったり、子育てが孤立化することで新たな子育ての問題につながることも懸念されています。また、人々の

ライフスタイルや価値観が多様化し、自立した理想の人間像を共通して持つことは難しい時代となっています。

自立とは何か、それは単に他者に頼らず一人で生活する状態のみならず、他者とのかわりを持ち自己の能力や可能性を発揮しつつ成長していくプロセスを含むものであると考えます。「個」としての自分の存在を受け止め、自身の力を信じ、自分らしく在ること。状況に応じて自分自身をコントロールしつつ、自ら主体的な態度をとろうとする姿勢を持つこと。多様性を受け入れ、世代や立場を超えて人間関係を築けることといったことが特に大切です。ことに仕事は社会参加の基本であり、家事や育児・社会奉仕活動などの土台であり、社会の一員として他者との交流を持ち、相互に助け合いながら生活を営む自覚を持つことにつながると考えます。

しかし今を取り巻く環境は、家庭の教育力の低下や親の過干渉や放任の問題・父親の育児参加の不足など・学力の低下傾向や学ぶ意欲の低下・いじめや不登校などの問題・近隣関係の希薄化など、社会で取り組むべき多くの諸問題を抱えています。

特に大切なことは、子どもたちが自立した存在として希望をもって生きていけるよう我々(学校・家庭・地域・社会)が自覚をもつて子どもたちを育てていくことが今ほど求められている時代はないのではと感じています。



毎月第1日曜日は「家庭の日」

毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市民会議編集委員

連載・青少年健全育成シリーズ 第242回

「自立とは」

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月

⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄